

ギャラリー自体 作品として展示

崇城大、きょうまで

崇城大学芸術学部の教員が持ち回りで開く今年最初の作品展が、熊本市中央区花畑町の崇城大学ギャラリーで開かれている。今回はデザイン学科の三枝泰之教

ささへぐさ



「ギャラリーという空間そのものを作品化する試み」と説明する三枝教授

授による「いま・ここを探して……」展。本来は作品を展示する器となるギャラリーそのものを、作品に見立てている。20日まで。

展示会場には、同ギャラリー全体の25分の1の模型が配置され、さらにその中にも25分の1の模型が入れられている。三枝教授は「劇中劇の構造を表現し、会場全体を一つの作品として見立てた」と説明、ルネサンス期ではシェークスピアが好んで用いた劇構造だという。

20日は、午前10時半～午後4時。入場無料。

(小田健司)